

大阪反核平和医療人の会 NEWS

Osaka Medical Personnels Alliance for No-nuclear World

第10号(2014年11月15日号)

発行：「大阪反核平和医療人の会」事務局

〒556-0021 大阪市浪速区幸町1-2-33大阪府保険医協会内／電話06-6568-7721／FAX06-6568-2389

「戦争する国」づくり 医療人も反対です

～大阪・なんばで緊急宣伝行動～



7月1日、安倍内閣による集団的自衛権の閣議決定を受け、7月3日に「二度と白衣を戦争の血で汚させません」と医師・歯科医師が立ち上がりました。

リレー宣伝では「世界に誇れる憲法9条に違反する閣議決定は許せません」、「平和だからこそ良い医療ができます」など次々に訴えました。

●大阪反核平和医療人の会●

「100mSv以下の被ばくの影響を考える」 津田敏秀先生講演会報告

大阪反核医療人の会は、福島県県民健康調査で次々に発覚される甲状腺ガンの報告を受け、低線量被ばくと健康への影響を考える学習講演会を開催し、76人の参加がありました。

講師は、公衆衛生学がご専門の岡山大学大学院教授の津田敏秀先生。先生は福島県健康調査のデータを使いながら、「健康影響はない」として影響を過小評価する国の姿勢を指摘し、福島県民の継続的な健康管理の必要性を強調されました。

「会」事務局長の武田先生からの報告を掲載します。

大阪反核平和医療人の会事務局長 武田勝文

津田教授は福島県から2014年5月19日に発表された検診結果を詳細に分析され、アウトブレイクと言えるほど異常な多発であり、それは原発事故によるものであると結論付けられた。それは津田氏の専門分野である疫学調査から導き出されたもので、統計学的な分析が不可欠で、統計学のアウトラインから話された。門外漢の私には難解であったが、被曝の影響を議論するには欠くことはできない。放射線医学の専門家ですら、疫学の知識がな



く、まともに議論できないありさまで、マスコミや県民への誤った情報が独り歩きしていることに懸念があるとされた。福島における18歳以下の甲状腺がんの多発については、大規模な検診の結果、もともとあった甲状腺がんを発見したものであろうという、いわゆる



講師の津田敏秀先生

「スクリーニング効果」説がある。福島県立医大の鈴木教授や元副学長の山下俊一氏などが代表的であるが、その根拠に大きな誤りがあり、山下氏自身がチェルノブイリで調査した甲状腺がんのデータと矛盾することになる。平均有病期間という概念を取り入れ、検索しても全国平均の数十倍という多発でありスクリーニング効果では説明がつかないとされた。

チェルノブイリ原発事故の調査では事故後4年目から甲状腺がんが増加していることから、福島でも来年以降、さらに多発することが予想される。そのための検診、治療体制を確立する必要があることと、19歳以上の成人の検診も必要であるし、福島県外の汚染地域の住民に対する検診の拡大も考慮すべきである（現在は福島県内の18歳以下の県民しか検診の対象となっていない）。また20mSv以下の地域に検討されている帰還計画は延期すべきである

政府は100mSv以下の被曝の健康影響についても確認されていないというが、これは根拠がなくICRPの結論を曲解してため、100mSv以下の被曝でも発癌は十分ありうることを明記すべきである。



知って欲しい 福島の間 私たちの暮らし ～森松明希子さんインタビュー～

「原発賠償訴訟」を知っていますか？

これは、2011年に成立した「子ども・被災者支援法」を実行あるものにしてほしい-

福島県から自主避難した人を含め全国で6,500人以上の人たちが国・東電を相手に裁判でたたかっています。関西訴訟原告団団長の森松明希子さんに、福島から避難して3年を経過した今と裁判についてお話いただきました。（聞き手は事務局 10月下旬）

「取り戻したいのは“普通の生活”」

●大阪に避難して3年半をふりかえって

当初はすぐに帰れるだろうと考えていました。しかし福島の情報を集める程、危険で戻れないと感じました。（国は大丈夫だから帰りなさいと言っていますが？）絶対に帰りません。国は詳細な調査の公表をしませんし、報道されるよりも恐ろしい状況であると確信しています。私たちが住んでいた郡山市は、津波などの被害はありませんでしたので、幸いにも家族は皆無事でした。しかしそれが負い目となって何も発言しなければ国につけこまれるだけです。



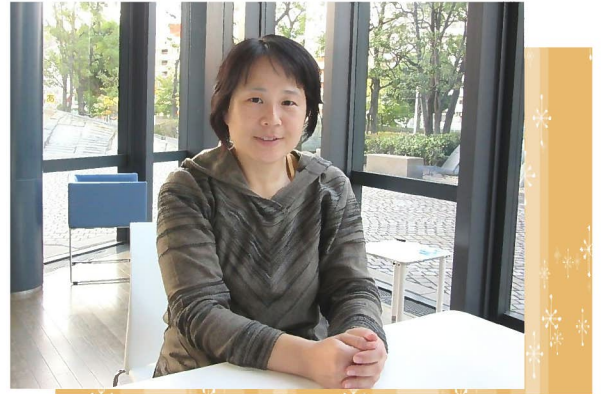
2014年10月18日に大阪地裁で第1回裁判があり、次回は12月4日。関西では原告が225人となっています。

●避難しても心配なのは健康への不安

事故直後の一番線量が高かった数ヶ月間、子どもと福島に留まっていたことが、今でも心配です。民医連の検診や福島県の健康調査があればなるべく受診しています。しかし、福島県の調査は自主避難者への配慮を欠

いており、受診を諦めた事もあります。県の対応には強い憤りを感じます。

また、当初は甲状腺がんなどの影響は「100万人に1人程度だから大丈夫だ」と言っていました。しかし影響が疑われるようになると、とたんに言っていることを変えています。何が大丈夫だったのでしょうか。残念ながら低線量被ばくの問題について、明確な答えはでていません。この事が更に国民が分断



される結果を招いています。

（大阪に避難していて困る事はありませんか？）

経済的に困窮している方が沢山います。事故後は国や福島県が生活支援や健康管理を十分にしてくれると期待していましたが、見事に裏切られました。ただ、一度福島から転出届けを出すと更に見捨てられてしまうのではないかと危惧しています。一日も早く事故前のような、何の心配をすることのない“普通の生活”を取り戻したいと強く願っています。

●裁判で訴えている「避難の権利」について

私達が訴えている「避難の権利」とは、「避難する権利」だけではありません。「避難をせずに留まる権利」「避難後に帰還する権利」「いつでも非難が許される権利」といった被災者全てのための権利です。重要なのは「人命が最優先」という憲法上の権利として「避難の権利」をとらえることです。

原発事故後に、議員立法で法律（「※原発事故子ども・被災者支援法」）が作られました。しかし、その後は絵に書いた餅となっています。除染もいっこうにすすんでいません。最低でも今福島で耐えている人が安心して、いつでも避難できるような場所や機会を確保してほしいと考えています。



核廃絶&原発ゼロ署名 ご協力ありがとうございました



例年、夏に取り組む「核兵器禁止署名」にあわせ、今年は「原発ゼロ署名」の協力もお願いしました。2つの署名に協力いただいた羽曳野市の川幡公子先生から、核廃絶や平和への思いを語っていただきました。

●どのように患者さんにお話されましたか？ また、患者さんの反応はいかがでしたか？

インターネットからの情報を見聞きするにつれ、日本では国民の知るべきことが報道されていないことを痛感しました。国民はだまされていることも知らず、なんという国か！ それは戦争前夜と同じだと憤りや危機感を覚えたのが、署名活動をした動機です。

診察後に患者さんに、福島原発事故はご存じですねと切り出し・・・それまでは、チェルノブイリ原発でおきた1基の爆発が世界最大でヨーロッパ全土を放射能汚染し、30年近く経った今、汚染地域に住む子供で全く健康なのはたった2割。福島では原発が4基も爆発して今やダントツの世界1。すでにチェルノブイリの4倍の放射能をまき散らし、関東以北から北アメリカ西海岸の土壌・海・食物を汚染した。放射能は今も出続けており、私たちが生きていく間には終息不能。これは新聞・テレビでは報道されていない、などと話しました。「署名してもちっとも変われへんわ」という人もありましたが、意思表示はしておくべき、と話

し。ほとんどの患者さんが署名してくれましたが、「原発は必要です、経済がだめになる、核廃棄物は地下に埋めればいい」と言う人もいました。

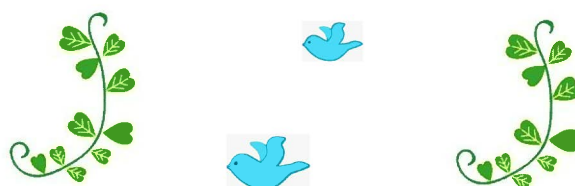
●核兵器と原発・・・「核」について

私は親から戦中・戦後の話を何度も聞き、まるで自分が体験したように思います。「核抑止力」となる原爆を作るために原発が要るそうですが、戦争というのは国が命令する殺人で、そこでは人間の最も醜い部分が出てきます。極限状態に置かれると、人間はどんな恐ろしいことでもするので。アウシュビッツでの経験を書いた『夜と霧』という本を当院の待合室に置いていますが、それを読んだ患者さんが感動して同じ退職者仲間に薦めて回ったそうです。

人間には、一旦作り出した放射能を消すことはできず、何十万年という半減期は、およそ人間の単位ではありません。宇宙を見れば地球は実に奇跡的な環境の星であり、



人間には地球の上しか生きる場所はありません。唯一の被爆国である日本がその地球を放射能で汚しているのを恥ずかしく思います。身の程を知り、命を守るべき医師たちがもっと発信すべきと思います。



●川幡先生、どうもありがとうございました。

核兵器は人道上許されない！

2015年4月のNPT再検討会議に向けて、大阪から核兵器廃絶の声を広げようと、大阪歯科保険医協会では1万筆を目標に核兵器廃絶署名に取り組んでいます。署名行動に先頭にたって取り組まれている中村新太郎先生からのレポートを紹介します。

保団連非核平和部員/反核医師の会
常任世話人 中村新太郎

●原水禁大会に参加して

広島と長崎への原爆投下から69年目が経った。初めて国際会議から世界大会に参加した。核兵器の非人道性の問題をテーマにした国際会議の第1セッションでは、反核医師の会会員として反核医師の会(PANW)の役割や立場を再確認し、更なる情熱を注ぐ決意を固めることができた。

2015年は被爆70年を迎える。ニューヨークで開かれるNPT(核不拡散条約)再検討会議に向けて、核保有国はじめすべての政府に対して核兵器禁止条約の交渉開始を要求し、「核兵器のない世界」の実現を強く迫る世論と行動を示すことを確認し合った。

今回の世界大会はNPT再検討会議に向けて参加者の意識の向上、意志の一致、行動の情熱を高める広大な共同と連帯の機会になった。

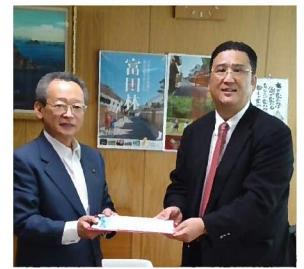
また原爆資料館を訪ねる機会も得た。広島は筆舌に尽くしがたい「地獄」と化し、21万人もの命が奪われ、生き延びた人も今なお苦しみを強いられている。私も大阪に戻り日々の



生活の中で、「核兵器なくせ」の世論を広げる決意をした。

署名、3,352筆あつまりました！

10月7日、多田利喜(ただ としき)富田林市長に署名のお願いでお会いしました。歯科協会監事の新宅先生がお知り合いとのことで、事前の電話を入れてくださり、お陰で快く署名をしていただきました。



私と一緒にいった富田林革新懇の事務局長と多田市長は同じPL学園の同窓生。立会人をしてくださった市議員は私と同じ高校の同窓生。地元の高校繋がりで大成功でした。



原水爆禁止2014世界大会が開かれる前に、国民平和行進が6月28日に大阪入りし、核兵器のない世界を訴え府内全自治体を巡りました。7月1日には中村新太郎先生が富田林市、2日は江原豊先生が泉佐野市を歩き通し、4日の大阪市内5コースに戸井大阪歯科協会副理事長など3名が参加行進しました。

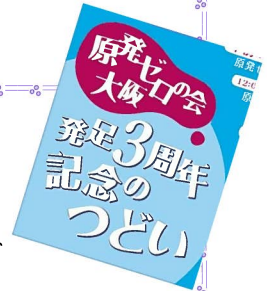




おおさか医科・歯科九条の会講演会 原発撤退こそ日本の貢献



6月15日、M&Dホールで元スイス大使の村田光平氏を招き、講演会と映画上映会を開催した。会員や一般市民など76人が参加した。村田氏は「フクシマと核廃絶～元外交官が語る日本の歴史的貢献～」と題して講演。「核の平和利用を名目に放射能事故を矮小化するものと」「IAEA（国際原子力機関）」を断罪。原発再稼働を進める安倍政権の原発政策を批判した村田氏は、「福島原発事故の危機を脇に置いて東京オリンピック開催などあってはならない」と強調し、「原発から撤退こそ、日本の歴史的な貢献」と語った。



なくそう原発！10月5日に発足三周年記念のつどい

脱原発行動や自然エネルギーの普及についての交流と「福島をいま語る」をテーマ記念講演が行われが行われた「原発ゼロのつどい」。意見交流では「最近では様々なデモで若い人を良く見かけることに驚いている。そうした若者達をもっと積極的に巻き込んでいこう」など声があがった。講演会講師は、福島の住職で原発避難者訴訟原告団長の早川篤雄氏。早川氏からは、被災住民の現状、政府・東電の無責任さに対する怒りなどを話された。会場から「大飯原発差し止め判決」について聞かれると、「非常に悔しい。あの判決がもっとはやくされ、福島原発も止まっていれば今回の被災はなかった」と答えた。



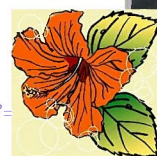
集団的自衛権より外交力 沖縄国際大学大学院教授 前泊博盛さんが語る

～8.31 大阪府歯科保険医協会サマーセミナーより～

集団的自衛権の行使容認と一体で進む安倍政権の「地球儀外交」は、軍事同盟国を増やそうとするもので、冷戦の遺物のような外交政策である。武器輸出3原則の撤廃はその一環だ。沖縄には日本の米軍基地の75%が集中する。集団的自衛権で真っ先に攻撃されるのが沖縄である。マスコミが流す「中国脅威論」や、中国とアメリカのどちらと友好にすべきかといった事実に基づかない論調には注意が必要だ。

2013年度、中国、米国に対する輸出入額はそれぞれ31兆、20兆円である。中国、米国のどちらも取るのが貿易国日本の進む道である。2者択一選択肢では、日本経済は成り立たない。経済的な安全保障が重要性を増している時代だ。アジアでもEUのような共同体が求められている。EU成立後、EU各国は軍事力を半減した。日本は米国との同盟関係のみを重視している時代ではない。外交官を増やし、トラブルを対等な関係で解決する外交力が求められる。

沖縄知事選挙は保革を超えた共同が広がっている。背景には、県民の声を無視した新基地建設や日米同盟を強化し、戦争する国になろうとしている危うい現状がある。日本国憲法の価値を生かした、外交力が求められている。



つながれ 平和の願い!

～大阪 きづがわ医療生協より～

7月26日（土）、大阪きづがわ医療福祉生協・大正エリアで「平和の風船とばし」と「はだしのゲン鑑賞会」を行いました。「平和の風船とばし」は毎年恒例の夏の平和の取り組みです。大正区の昭和山に登り、短冊に書かれた平和の願いを風船で飛ばします。今年も短冊に込められたたくさんの方の平和への願いをいっせいに飛ばしました。去年は三重県からお返事を頂きました。今年はどこまで飛ぶのか楽しみです。私たちの平和への思いが少しでも広がり、伝われば嬉しいです。（きづがわ医療生協事務局 石村さん）



「医の倫理—過去・現在・未来」

大阪フレ企画開催

日本の医学者・医師がかつての戦争中におこなった「人体実験」などの非人道的行為を史実に沿って検証し、その教訓を生かしていくところは欠かせないとして、近畿各県で「医の倫理」企画が開催された。大阪では、10月23日から25日までの3日間、大阪保険医会館で「医の倫理パネル」展を開催し、関東軍が中国で行った人体実験のパネル集が展示され、参加者は熱心に見入っていた。

来年4月には医学会総会2015関西並行企画として、4月12日（日）に京都・知恩院和順会館で「医の倫理—過去・現在・未来」が開催される。

ジャーナリストの青木富貴子さんを講師に、「731部隊の戦後と医の倫理」をテーマにした講演会とシンポジウムが開催される予定。



「戦争する国」づくり 許さない!

～集団的自衛権行使容認反対署名のお願い～

7月1日に、安倍首相は集団的自衛権行使容認について閣議決定をしました。集団的自衛権とは、「自分の国と深い関係にある他国への武力攻撃を、自分の国が直接攻撃されていなくても実力で阻止することが正当化される権利（自民党パンフレット）」です。

「自分の国と深い関係にある他国」とは安全保障体制で軍事同盟を結ぶアメリカであり、集団的自衛権が行使されれば、自衛隊の他、真っ先に動員されるのがわたしたち医療者です。戦闘員の治療など、非日常的な医療に携わらなくてはならなくなり、さらにアメリカの戦争に日本の国民も巻き込まれかねません。

自衛と言いながら、これまで世界で集団的自衛権が行使されてきた例は、イラク戦争、アフガン戦争など、アメリカによる侵略戦争です。

さらに直近では、年末までに日米防衛協力のための指針（ガイドライン）を自衛隊が地理的制限なく、世界のどこでも米軍に協力できる枠組みに作り変えるなど報道がされています。

日本は、「日本国憲法九条」によって、戦後一人の国民も戦争で犠牲にしたことはありません。「戦争で2度と白衣を血で汚させない」、「国民の命を守るためにあらゆる戦争に反対する」、この声を国会に届けるために、ぜひとも署名に協力をお願いいたします。

同封しております署名締め切りは集約の関係上、12月末日までにお送りいただけましたら幸いです。尚、追加注文などは下記事務局までご連絡下さい。

大阪反核平和医療人の会

代表世話人 山上 紘志

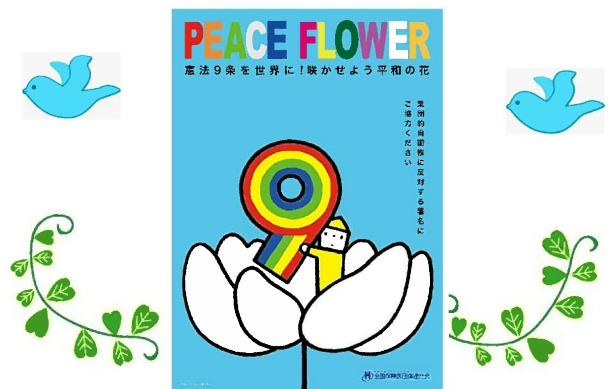
保団連非核平和部員

大阪府保険医協会 反核平和委員会

委員長 武田 勝文

大阪府歯科保険医協会 理事

中村 新太郎



入会と会費振込みのお願い

結成から5年余を経過しましたが、このたび「反核平和医療人の会ニュース」第10号を発行いたしました。まだ未入会の方には是非ご入会下さるよう呼びかけます。なお、既にご入会の方々には別途郵便振込用紙を送付させていただきますので、2014年度分の（2013年度会費未入の方は併せて）振込みをよろしくお願いいたします。また募金も大歓迎です。

会費

- 医師・歯科医師会員（医学者を含む）年額 6,000円
- 学生 無料 ○一般会員 年額 1,000円
- 団体会員 一口 10,000円

「大阪反核医療人の会」規約より



☆☆ ニュースへのご意見・ご感想・投稿を募集中です。宛先は「大阪反核平和医療人の会」事務局／〒556-0021大阪市浪速区幸町1-2-33大阪府保険医協会内／電話06-6568-7721／FAX06-6568-2389